

SEND Vietnam シラバス

教員	氏名	筒井久美子 (教育開発学修支援センター)		
	E-mail	ktsutsui@apu.ac.jp		
	研究室	B棟 420	オフィス・アワー	木曜 3限

授業のねらい

海外教育インターンシッププログラム、SEND (Student Exchange Nippon Discovery) は、グローバル人材育成推進事業の一環として補助金を受け、実施されている。SEND の定義は「日本人学生が留学先の現地の言語や文化を学習するとともに、現地の学校等での日本語指導支援や日本文化の紹介活動を通じて、学生自身の異文化理解を促すことを海外留学の目的と位置づけ、将来日本と留学先の国との懸け橋となるエキスパート人材の育成を目指す取り組み」(文部科学省)である。APU では、秋季はベトナムの大学で、日本語教育支援や日本文化紹介等を行うことにより、派遣国・地域の教育や国際化に寄与することを目的としている。

このプログラムではインターンシップの効果を高め、その後の学生生活または卒業後のキャリアに有機的につなげるために、事前授業・実習・事後授業の3部構成で成り立っている。事前授業では、現地での生活に適応し、現地の人々とコミュニケーションを円滑にするために「異文化コミュニケーション能力」の向上を図る。また、実習先の文化理解を深め、日本語教育や日本文化紹介をスムーズにサポートするために、派遣国についてのリサーチ及び発表、日本語や文化の教案作成や模擬授業を行う。さらに、自己成長につなげるために、自分の伸ばしたい能力を明確にして目標を設定する。実習中は、毎日リフレクティブ・ジャーナルを通して内省的な考察を行い、他者と自己および多文化と自文化に対する理解を深め、自分の活動を振り返り自己成長につなげる。また、他の学生のリフレクションを読みコメントすることにより、お互いの学びを共有し、支え合い、高め合う「学びのコミュニティー」を形成する。事後授業では、受講生と現地での学びや葛藤、どのように能力を伸ばしたのかについて共有することにより、それぞれの経験を今後どう使い、伝え、活かしていくのか話し合い、次への挑戦につなげる。

SEND Learning Goals 「学習目標」

自己成長

1. 学びの目標や自己成長の目標を立て、それらを達成することにより、今後の課題を見つける。
2. リフレクティブジャーナルを通して、内省的考察ができるようになり、経験を翌日や将来のための学び、そして自己成長のために活かすことができる。

授業運営及びティーチングスキル

1. 日本語や日本文化の教育支援準備を通じて、それらの理解を深める。
2. 日本語や日本文化について、英語で教えることができる。
3. 授業や活動を計画し、実施することができる。

貢献力

1. 現地で何が必要とされているのか見つけ、貢献することができる。
2. どのように自分が人の役に立つことのできるのか考え、行動することができる。
3. 他のメンバーが書いたリフレクティブジャーナルを読み、コメントすることにより、メンバーの役に立つとともに、自己の成長につなげることができる。

異文化交流と理解、批判的思考

1. 授業・課外活動・地域交流イベント等に参加して派遣先の学生や現地の人々との交流を深める。
2. 事前準備と実習を通じて、派遣国・地域の言葉や文化に対する理解を深める。
3. 異文化を受け入れ、理解を深めながら能動的に他者と関わることができるようになる。
4. 異文化コミュニケーションの理論を異文化環境で応用・実践することにより、理論の理解を深め批判的に考察することができる。

責任感

1. 一個人としてだけでなく、日本から派遣されたインターンとして、APU 生代表として、自分の行動に責任を持つことができる。
2. 物事がうまく行かなかった場合、環境や周りの人のせいにするのではなく、どこがうまく行かなかったのか課題を見つけることができる。

問題発見・問題解決能力

1. 誤解や衝突が起こったり、困難な状況に陥ったりした際、要因や問題点を探り、倫理的・論理的・文化的観点からの確な解決策を提案できる。
2. 自ら課題や問題を発見し、多角的視点からそれらを分析できる。

他者への影響力・コミュニケーション力

- 自分の経験を他の学生に効果的に伝え、SEND コミュニティーを広げることができる。

学生への要望事項

実習を通じて、現地の人と友情を育み、困難をチャンスと受け止めて、派遣国の理解を深めてください。体調管理を心がけ、柔軟な態度で広い心を持って実習に臨み、これから自分が歩んでゆく人生の指針に加えられるよう、積極的に責任を持って行動してください。

注意事項

- すべての授業に参加すること。やむをえず授業を休む場合（減点）は、必ず事前に教員に連絡すること。休んだ授業の内容は必ず他の学生に確認すること。
- 授業中のスマートフォンの使用は一切認めません。

教科書

『現代ベトナムを知るための 60 章』今井 昭夫・岩井 美佐紀・坂田 正三・遠藤 聡（編著）

参考図書

- 好井裕明 (2006) 『あたりまえ』を疑う社会学—質的調査のセンス 光文社新書
 好井裕明 (2014) 『違和感から始まる社会学』—日常性のフィールドワークへの招待
 光文社新書

評価

出席・参加（事前授業/インターンシップ中/事後授業）	15%
プレゼンテーション（模擬授業・最終発表）	20%
e-Portfolio（振り返り&コメント）	30%
実習評価	10%
事後レポート	15%
アンケート・その他の提出物（SEND ルーブリック等）	10%

課題

- リフレクティブ・ジャーナル
 - ・事前授業中（週1回）と実習中（週末のグループ活動も含む）に振り返りを行い、他の実習生の振り返りを読み、1回に最低2人以上コメントを書く。
- 勉強会の実施
 - 『現代ベトナムを知るための60章』から選びグループで共有（ベトナム出身の学生のインタビューを含むとなおよい）
- 模擬授業
 - グループ（15～20分授業+5分コメント）
- 最終発表
 - 研修先での学びについて個人発表（発表）
- ルーブリック課題（①～⑤）
- 事後レポート
- アンケート

授業スケジュール

	日程	授業内容	課題 (前日 11:55PM 締切又は Manaba に掲載)
事前授業			
①	11/14 6限	<ul style="list-style-type: none"> ● アイスブレイキング ● 授業概要の説明 ● SEND ルーブリックについて ● ベトナム勉強会の項目決め 	
②	11/28 5限	<ul style="list-style-type: none"> ● リフレクティブジャーナルの書き方 ● リーディング 	自己紹介 ルーブリック課題①

③	12/5 4限	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業作成のポイント ● リフレクティブジャーナルのコメント書きのポイント 	リフレクティブジャーナル1 ループリック課題②
④	12/5 5限	<ul style="list-style-type: none"> ● 異文化間コミュニケーションスキル 	
⑤	12/12 4限	<ul style="list-style-type: none"> ● ベトナムについて 	リフレクティブジャーナル2 <u>リサーチクエスト</u>
⑥	12/12 5限	<ul style="list-style-type: none"> ● ベトナムについて 	
⑦	12/19 4限	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本語模擬授業Ⅰ(グループ) 	リフレクティブジャーナル3
⑧	12/19 5限	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本語模擬授業Ⅱ(グループ) 	
⑨	1/9 4限	<ul style="list-style-type: none"> ● チームビルディング 	リフレクティブジャーナル4 ループリック課題③
⑩	1/9 5限	<ul style="list-style-type: none"> ● チームビルディング 	リフレクティブジャーナル5 ループリック課題④ コメントの集約1
⑪	1/16 4限	<ul style="list-style-type: none"> ● SEND 経験者との懇談会 ● ベトナム出身者との懇談会 ● (ベトナム語プチ講座) 	
⑫	1/23 6限	<ul style="list-style-type: none"> ● ペア個人目標の共有 ● SEND ループリック・グループ発表、共有 	
★ ペア又はグループで授業準備 1/23-2/14			
★ 実習 2017/2/15～3/16			
⑬	4/17 4・5限	<ul style="list-style-type: none"> ● 振り返り 	ループリック課題⑤ 事後レポート アンケート

(参加先輩学生の都合により、内容が変更になることもあります。)